

奈良県指定文化財調査票

調査日	2020 年	12 月	12 日	記入者	亀田幸英	
調査者名	石井	亀田	神野	鈴木	東辻	前田

文化財名	大蔵神社庭園					
種類	<input type="checkbox"/> 史跡	<input checked="" type="checkbox"/> 名勝	<input type="checkbox"/> 天然記念物	<input type="checkbox"/> 有形民俗文化財	<input type="checkbox"/> その他 ()	
指定年月日	1973年(昭和48)3月15日					
所在地	吉野郡吉野町南国栖343					
所有者 管理者	大蔵神社					
員数						
時代区分						
樹木の場合	(樹木名)			(樹齢)		
案内板の状況	奈良県の説明板が設置されている。					
公開	常時公開					
保存状態	<input type="checkbox"/> 非常に良い	<input type="checkbox"/> 良い	<input type="checkbox"/> 普通	<input checked="" type="checkbox"/> 悪い	<input type="checkbox"/> 非常に悪い	
	補足 (山中につき、かなり荒れている状況)					
当面の課題	一見すると、窪みと立石群にしか見えない。せつかく県指定の名勝であるので、庭の全体が分かる実測図の添付や、井戸から導水路を経て二つの池に水が流れ、水が溜まる状況がよく分かるように説明板の改善を期待する。					
今後の課題	遺構であるので勝手に手を付けるのは困難であるが、放置されすぎである。専門家の手を入れて流水施設として丁寧な保存を検討できないか。					
その他 (由緒など)	この庭園は高さ1mの吉野溪谷産の巨石を中心として、繋がった二つの池を配している。本来これらの池は、井戸(泉)から引かれた導水路による流水施設となっていたらしく、小泉水庭跡(しょうせんすいていあと)である。創造年代は室町時代。近世においても補修工事は認められず日本庭園史上からも尊重すべきもの。(県の説明板や吉野町史より引用)					
コメント	室町時代中期を下らないという庭園史上貴重なものと思われるが、あまりにも放置しすぎで荒廃している。また、県の説明板は簡単すぎる。名勝ならば水を溜めた池の状況写真を付けるなどして、泉水庭園であることをもっと丁寧に説明すべきと思う。					

奈良県指定文化財調査票(写真)

調査日	2020 年	12 月	12 日	記入者	亀田幸英	
調査者名	石井	亀田	神野	鈴木	東辻	前田

文化財名	大蔵神社庭園
------	--------

①今でも水の湧く井戸(泉)



②井戸からの導水路(小泉水庭の池に繋がっている)



④水は③の池と繋がった二つ目の池に流れ込む



③水はまず写真の手前の池に流れ込み



奈良県の説明板

大蔵神社本殿

県指定名勝
大蔵神社庭園

昭和四十八年三月十五日指定

この庭園は、高さ約一メートルの吉野溪谷産の巨石を中心として、つながった二つの池を配している。本来これらの池は、泉から引かれた導水路による流水施設となっていたらしく、小泉水庭跡とされる遺構である。

池割や石組の様式は、近畿地方では僻遠地に残る地方武士居館跡の庭園跡に類似があり、滋賀県高島郡朽木村旧秀隣寺、三重県一志郡美杉村北畠神社の泉水の形状などに類似している。また、日本庭園としては珍しい海抜約三〇メートルの高所に位置し、吉野川上流の渓谷と、その対岸の高峰を借景にしている。これらの特色から、その創造年代は室町時代中期を下らないと考えられている。

近世において補修工事が全く認められず、日本庭園史上からも尊重すべきものである。

平成七年三月
奈良県教育委員会

